

各地のたより



りました。

児童は登山道沿いの樹木の名前や特徴、ニホンジカ

昨年度は滑床溪谷への登山

を実施し、今年度について

は、全校児童で三本杭へ登

山を行いたいとの依頼が

あり、今回の森林教室とな

(以下シカ)の被害防止用

のネット設置の状況などの

説明を聞きながら約二時間

かけて三本杭の頂上を目指

しました。

途中の八

面山で休憩

し、この山

頂が愛媛県

と高知県の

県境である

ことを説明

すると、驚

いていまし

た。

三本杭の

山頂には、

高学年の児

三本杭でニホンジカ食害等の説明

真を見せながら、

その後自然再生

のために、ミヤコ

ザサの移植や周

囲へのシカ被害

防止ネット設置

を行った結果、ミ

ヤコザサ等の植

生が回復したこ

とを説明しまし

た。実際に現地を

見ながら話を聞

いた児童達は、非

童が早く到着しましたが、常に驚いていました。

低学年の児童が到着するの 今回の登山で、森林等の

待つて、みんなで楽しくお 自然の良さや大切さ、また、

弁当を食べました。 人の手を加えることで自然

昼食後は、三本杭の名前 は回復すること等を学んで

の由来や、シカの食害に もらえたと思います。

よって裸山になっていた平

成一八年頃の山頂周辺の写



いた児童達は、非

童が早く到着しましたが、常に驚いていました。

低学年の児童が到着するの 今回の登山で、森林等の

待つて、みんなで楽しくお 自然の良さや大切さ、また、

弁当を食べました。 人の手を加えることで自然

昼食後は、三本杭の名前 は回復すること等を学んで

の由来や、シカの食害に もらえたと思います。

よって裸山になっていた平

成一八年頃の山頂周辺の写

八面山で記念撮影



八面山で記念撮影

途中の八面山で休憩し、この山頂が愛媛県と高知県の県境であることを説明すると、驚いていました。三本杭の山頂には、高学年の児

童が早く到着しましたが、常に驚いていました。低学年の児童が到着するの 今回の登山で、森林等の待つて、みんなで楽しくお 自然の良さや大切さ、また、弁当を食べました。 人の手を加えることで自然昼食後は、三本杭の名前 は回復すること等を学んでの由来や、シカの食害に もらえたと思います。よって裸山になっていた平成一八年頃の山頂周辺の写

九月二六日に愛媛県松野町立松野西小学校で四年生二一名を対象に、また一〇月一〇日には、高知県宿毛市立小筑紫小学校で五年生二〇名を対象に、両校共に本年度三回目の森林教室「水の土壌浸透実験」をそれぞれ行いました。

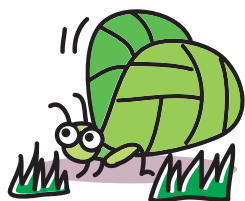
松野西小学校は、まず最初に、森林の大切な働きである、水を蓄える働きや山崩れを防ぐ働き等について、学習しました。(小筑紫小学校については、六月



二〇日の森林教室です。学習済みです。)

その後、「森林のある山」と「森林のない山」を再現した治山模型を使って、ジョウロで雨を降らせて、森林の働きを実証しました。樹木や枯葉を通して出てくる水は、透明になってビーカーに溜まっていくのに対し、木も枯葉もない土がむき出しの模型からは、いつまでも濁った水が溢れるように流れる様子を目の当たりにした子どもたちは、「すごい!」と目を丸くして、二つのビーカーを見比べていました。

また、森林のある山は、木や落ち葉が雨で直接地面がたたかれるのを防いだり、土壌がスポンジのように雨を吸い込み、地表を流れないので崩れにくいのにに対し、森林のない山は、雨が土を打ち、地表を流れるため土壌が流出し、さらに斜面や山裾に置かれた家の模型が倒れていく実験を見た児童からは、「木のない山には、家は建てられん」等の感想も聞かれ、森林の持つ土砂流出を防止する働きを十分理解したようでした。



「水の土壌浸透実験」

小筑紫小学校



松野西小学校



森林の土壌はすごい



九月二三日、徳島市の「とくしま植物園」において徳島市立沖洲児童館児童九名を対象に森林教室（森林散策）を行いました。

当日は、午後からの開催で天気も良く、絶好の野外活動日となりました。開催場所である「とくしま植物園」は、徳島市が運営している施設で、整備が行き届いた庭園等を目にすることができます。

観察小道へ入ると、たくさんの樹木や草花等が観察



樹木の名前当てクイズ

できて、野外活動にはうってつけの場所です。最初に樹木の名前当てクイズを行い、徳島県の県木であるヤマモモや、名前の由来が面白いサルスベリ、縁起が良い木とされるユズリハなど、親しみやすい樹木を中心に児童達に答えてもらいました。難しいと感じる児童もいたようですが、みんな熱心に考えてくれていました。その後、あらかじめ隠しておいた人工物を探す、カモフラージュというネイチャーゲームを行いながら休憩所を目指しました。集中力を高めて静かになった児童達は、真剣に正解を導いていました。

おやつ休憩を挟み、元気が増した児童達と、今度は芝生の広場で動物や植物の生態を学んでもらうため、「コウモリとガ」と「種子模型作り」を行いました。

「コウモリとガ」というゲームでは、なぜ目が見えないコウモリが暗闇でガなどの昆虫を捕らえることができるのか、「種子模型作り」では、植物が遠くまで種子を運び、子孫を残すよう進化を遂げたこと等を、体を使って体験してもらいました。

参加した児童からは「とにかくある動物園に来た時よりも楽しい」とや「観察小道は坂がしんどかったけどまた来たい」という声があり、とてもうれしく思いました。



コウモリとガ（ネイチャーゲーム）

児童達には自然に触れることの大切さや、住んでいる身近な地域にもたくさん自然が残っていることを実感してもらえたと思います。地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも森林環境教育を実施していきたいと考えています。



一〇月四日、徳島県と高知県の境、白髪分岐の南東に位置する別府山五五林班イ小班内において、「三嶺の森をまもるみんなの会」の協力を得て、ボランティアによるシカ被害防止対策を実施しました。

開会式（奥物部ふれあいセンター）では田村署長から、平成一九年度以降、本年までに二〇回の活動に協力いただいた、「三嶺の森をまもるみんなの会」と、ボランティア活動に参加

していただいた、総勢約二八〇〇名の方々に對してお礼と感謝を伝えるとともに、三嶺周辺におけるニホンシカ（以下シカ）食害が年々改善されつつある現状と、今後の食害防止対策に對する協力要請の挨拶がありました。

今回は、平成二五年度の



開会式での田村署長の挨拶

ボランティア活動において、白髪山（標高一、七七〇m）西側稜線部に設置したシカ捕獲補助柵に一定の成果が見られたことを踏まえ、今後のシカ捕獲をより一層効率よく実施するために、シカ捕獲補助柵（ネット）を設置するとともに既設防護柵の補修を行ったものです。

当日は、高知県、香美市・南国市の職員、J A土佐香美職員、大学生、高校生等幅広い分野の一般参加者に加え、局署から一一名の職員の参加を得るなど、総勢七五名（五班編成）の方々に協力をいただきました。

現地は、台風一七号の影響を受けて、濃霧や風が強

くなり、時折しぐれるなど、肌寒い厳しい気象条件での作業となりましたが、森林技術指導官の適切な指導と、各班のリーダー等のサポートにより段取りよく作業を行い、予定どおり終了することができました。

今回のボランティア活動においては、白髪避難小屋

周辺のササが香美市及び猟友会による捕獲の効果により回復しつつあることを、参加者全員が確認できたものと考えています。

今後において

をまもるみんなの会」と緊密に連携し、ボランティア活動を通じ、多くの人に三嶺周辺におけるシカ食害の現状等を知っていただくとともに、各関係機関等の意見を聞きながら、三嶺周辺のシカによる被害防止と植生回復等自然環境の維持に取り組んでいく考えです。



シカ防護柵の補修